



〒170-0002 東京都豊島区巣鴨2-5-12 5F

TEL03・3576・5811 FAX03・3576・5815

フリーダイヤルお客様センター0120・76・5812

『バランスαニュース』は、ユーザーの皆様と、販売者、メーカーを結ぶ情報交換誌です。

書式変更

『バランスα』誕生の経緯

● 開発・生産に挑んだキッカケ

『バランスα』は「有用微生物群」を抜きに語れません。「有用微生物群」とは、昭和40年代から農業土壌の改良研究に取り組んでいた琉球大学農学部比嘉教授(当時)が、最初に提唱した言葉で、「私たち人間を含む生物には、様々な微生物の共存作用が、プラスの環境、いわゆる抗酸化作用をもたらしている」という画期的な発見でした。同教授はその微生物群を有効活用する考え方と技術を「EM」と名づけ、農業土壌の改良のみならず環境浄化全般から、さらには医療分野にも活かせるよう研究を進め、「EM」を社会的運動として普及させ、今日に至ります。同教授の開発による「有用微生物群」の考えに基づいた健康飲料第一号が「EM-X」であり、これが『バランスα』の先行商品となりました。

一方、のちに『バランスα』を誕生させる高橋剛は、山形で自然農法による米作を実践し、自然農法に欠かせない「土づくり」に有用微生物が応用できることを知って積極的に取り入れました。そして「冷害に負けないおいしい米を作る農業経営者」として全国に名を知られるようになります。丁度その頃、EM普及団体が全国にでき、EM商品が次々と生まれる中、いつしかEMは簡単に万能という風潮が蔓延してきま

● ひとつの口に入るものへのこだわり

「ひとつの口に入るものには、気を使わずに新しいことにはない」。その信念から、高橋は新たな挑戦を素材にこだわることから着手しました。『バランスα』の主原料となるのは、自らが丹精こめて作った完全無農薬玄米。副原料には試行錯誤の上、玄米には

ない強力な抗酸化酵素アミグダリンを大量に含む「水」に注目しました。じつは「有用微生物群」の活性化には、水質が影響します。他の微生物が繁殖している環境では「有用微生物群」の働きが鈍るのです。つまり、どんなに上流域の水でも表層水は使えないと判断し、霊峰月山の山麓の大地を地下250mまで掘り下げ、直に伏流水を汲み上げることにしたのです。

「バランスα」の製造には、原材料の一次発酵に1年、仕込水を加えた二次発酵に約5ヶ月、合わせて1年半もの期間を要します。一次発酵では、細かく砕いた原材料に「有用微生物群」を加え、ゆっくりと発酵させ、出来上がる発酵資材を「ボカシ」と呼びます。この伝統肥料である「ボカシ」は、ある女性の手によって作られています。高橋は、「いろいろなやつにボカシを作らせてみたが、誰一人、彼女のようにはできなかった。おれにもできない。一見適当に作っているように見えて、最後に輝くのは彼女のボカシだ」と讚えます。経験による目に見えない力が、微生物たちを共感させるのでしよう。黄金色に輝く「ボカシ」は香ばしい香りを放っています。

仕込水を加えた二次発酵では、より精妙な管理が求められます。温度管理、発酵期間、送り込む空気量、水と資材の割合など延々たる試行錯誤が続きました。

● 抗酸化力を保つ健康飲料の誕生

その結果、長期間の発酵からもたされた「エキス」にカロリー分が全くなくなりまし

た。微生物たちがすべて食べつくし、それは以上増殖する要素がない状態です。それは発酵が終着点に辿り着いたことを物語っていました。その「エキス」は極めて安定した抗酸化力を持ち、長期間の保存にもまった品質が変わらない健康飲料です。『バランスα』が遂に誕生した瞬間でした。とはいえず、彼はまだそれを「完成」とは思っていないようで、いまも原材料の新たな候補を模索し続けています。『もつてのほか』という菊がいい、あるいは「千年経っても発芽するハスはどうか」と、抗酸化力に一層の磨きをかけようとしているのです。微生物の組み合わせも吟味しています。ときおりは、「工場も米作りも後進に委ね、悠々自適に牛飼いにしたい」などとうそ

ユーザーコーナー

【Q. 1】 「バランスα」はアトピーには効くのでしょうか？

【A. 1】 アトピーの発症原因に様々な説があり、それらをめぐる治療法の対立があります。ただ、どのような発症原因であるにせよ、発疹の発症形態が「患部における活性酸素の過剰による炎症」であることに変わりはないと考えています。これは逆にいえば、何らかの刺激に体内で敏感な反応が起きて、最終的に活性酸素を除去する力があれば、発疹という炎症は緩和されることを意味します。

「バランスα」が個々のユーザーの方々に効果的かどうか、その簡単な試し方として、飲用を開始する前に発疹がでたとき「バランスα」を脱脂綿などに浸して患部にあてておき、発疹が引いていくかどうかを検証することをお奨めします。そのとき「バランスα」を当てた箇所の発疹が、他の箇所より早く引いていくようでしたら、その方のアトピーに効果がある可能性が高いと思います。飲用する場合は、1日1回、20~30mlを程度で結構です。

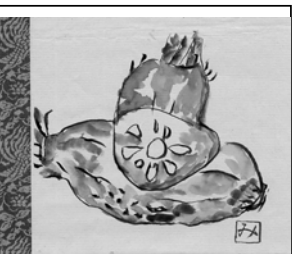
【Q. 2】 送って頂いた「バランスα」の無料サンプルを試してみたところ、膝から下に少し痛みを感じるようになったのですが、飲用と何か関係があるのでしょうか？

【A. 2】 例えば次のような場合であれば、「好転反応」の可能性が考えられます。

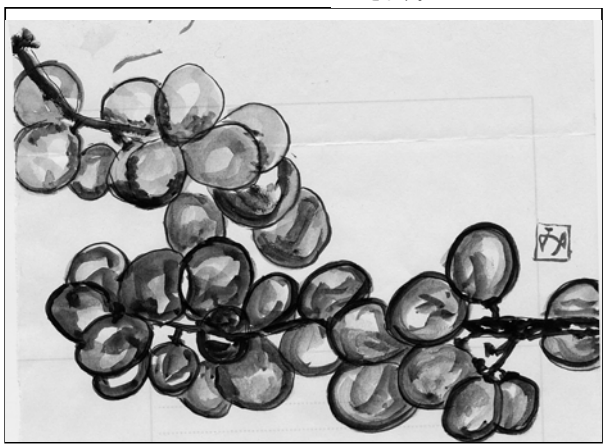
「かつて怪我や酷使していた部位が痛み出した」「運動不足や病氣治療の安静のため、使用頻度が落ちていた部位が痛み出した(とくに間接など)」「血行障害や自律神経失調があり、しびれや冷え性を経験したことがある部位が痛み出した」。

「好転反応」は、血流の回復などにより、体全体の生体機能全般が向上し、健康な部分と問題のある部分とのギャップが明瞭になることで自覚できるようになる症状です。内臓疾患や血行障害の場合、活性酸素の発生を抑制することで、自己免疫力が回復し、機能改善が期待できます。

しかし、運動不足の場合には器官の自己回復力だけではもちろん不十分で、その部分の使用頻度をアップしないと機能は回復しません。「好転反応」に当てはまるような場合であれば、それを機会に体の問題箇所と、問題内容を同時に発見できれば理想的なものです。痛みが続くようときは、病院でき



今回ユーザーコーナーにイラスト3点を採用させていただいた目黒宮子様には、玄米のおいしさにトコトンこだわった高橋剛プロデューサー「有機発芽玄米おにぎり」を1ケースプレゼントさせていただきます。



「ユーザーコーナー」にお便りをお待ちしています。質問、要望、体験談、健康に関することも、そうでないことも、何でもかまいません。なお、「高橋剛商会」では、「バランスα」の製造元「日本抗酸化飲料(株)」より委託を受けて、同社の公式ホームページを管理しております。下記のURLからご覧下さい。「バランスα」の製造工程や工場の製造スタッフの素顔など、ありのままの「バランスα」がごらんになれます。
★ URL / <http://www4.ocn.ne.jp/~balance1/>

ぶいておりますが、その探究心と執念はいまも近づき難い威光を放っているように思われます。

活性酸素と「美容」について

『バランスα』は美容にどう役立つのか？

ユーザーアンケートで寄せられたおハガキの中に美容目的で『バランスα』を飲用されている方が大勢いらっしゃることがわかりました。また、お客様サービスセンターにも「美容効果について」のお問い合わせが多いことから、今回は女性の最大の関心事である（密かに男性も）美容について話してみます。

＜肌の老化と原因＞

肌が老化して見える原因はいろいろですが、年齢を重ねた人は「シミ」「シワ」「くすみ」にお悩みの方が多くようです。このような肌の老化は、「紫外線」「酸化」「乾燥」が3大原因といわれています。つまり、年齢を重ねるということは、この3つの原因によるダメージを長期間に渡って受けつづけてきたということです。とはいえ日常生活の中で紫外線、酸化、乾燥のすべてから肌を守ることは至難の業です。スキンケアで大切なのは、肌の老化に繋がるこれらの原因を毎日少しずつ取り除いていくことです。「シミ・ソバカス」は、メラニン色素の沈着によって起こることはよく知られています。最近の研究で、このメラニンの形成反応が**活性酸素**によって強力に促進されていることがわかりました。加齢と共に、皮膚の保湿作用を受け持つヒアルロン酸の働きも低下し、**活性酸素や酸化した脂質**によって、シミ・ソバカス・シワなどの症状が引き起こされることもわかってきています。

＜活性酸素は肌細胞を酸化させ、損傷をあたえる元凶＞

乾燥や紫外線への対処法は様々な研究が早くから進められていましたが、「酸化対策」に関しては遅れを取っているのが現状です。皮膚は、紫外線や酸素の影響を受けて**活性酸素**が生じ、**酸化**が起こりはじめます。この酸化反応が、皮膚を老化させ、肌の張りや弾力を奪い、シワやクスマを招く引き金となるのです。そのまま放っておくと、皮膚の深い真皮層の細胞まで次々と酸化し、**皮膚の老化**を進めてしまいます。毛穴から出た脂も空気に触れて酸化すると表皮にダメージを与えます。肌の老化を防ぎ、若々しさを保つには「**紫外線を防ぐこと**」と、「**余分な活性酸素を分解する抗酸化物質を摂る**」などの対策が重要です。

＜抗酸化力が強い人はシミ・ソバカス・シワができにくい！＞

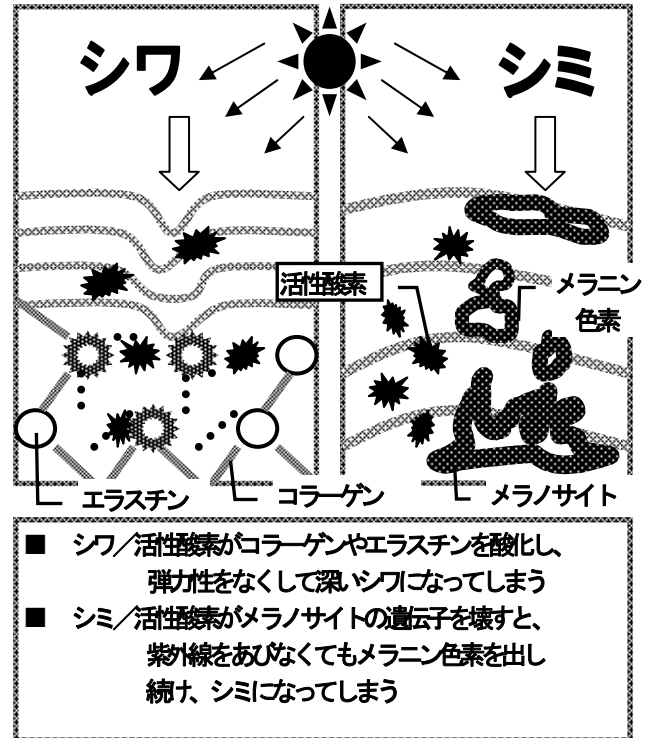
シミ・シワ・ソバカスができる人と出来ない人がいます。これは個々人が体内に保有している**抗酸化力**の差によるものです。お肌がしっとりとなめらかな状態を保っているひとは、保湿性もあり、肌のみずみずしく、生き生きしています。**活性酸素**が肌をいたずらして細胞に害を与えるのを体内の**抗酸化力**で完全に中和しているからなのです。皮膚がんの症状のずっと軽いのが、シミ・ソバカスですから放っというていいはずはありません。

＜『バランスα』が美容に役立つ理由＞

『バランスα』は強力な**抗酸化力**があり、飲用すれば真皮で発生する**活性酸素**を無害化します。また、化粧水のように肌に浸しても日中紫外線でダメージを受けて酸化した表皮を正常に戻し、年齢に負けない輝く素肌へ導きます（御使用前にパッチテストを行ってください）。サプリメント（特にビタミンC、E等の抗酸化ビタミン）との併用も相乗効果が期待できる飲み方だと思います。『バランスα』の効果的な飲み方は、一度に多量に飲むのではなく、20～30mlを目安に一日数回に分けて飲むことをお勧めします。

＜ユーザー様の声＞

- みなさんご存知無いかもかもしれませんが、化粧品メーカーには「肌がかぶれた」等のクレームが毎日たくさん来ます。化粧水などは紫外線にさらされれば酸化して品質が落ちます。商品ラベルの注意書きに「直射日光の当たらない所で保存してください」と謳っているのはそのため。『バランスα』は開封後に直射日光の当たる所に置いて色も味も変わらず強い抗酸化力を持った液体である事を実感できました。飲んでよし、つけてよしの不思議な液体ですね。（元化粧品メーカー社員、飲用期間1年）
- 肌のツヤがよくなってきた。（50代男性、飲用期間6ヶ月）
- アウトドア派の私は、お風呂上りに化粧水代わりに使っています。主人も愛用してます。（30代女性、飲用期間3ヶ月）
- 週3回スポーツクラブで泳いでいます。泳いだ後、プールに入っている塩素で肌がカサカサになっていましたが、『バランスα』をつけると、肌がしっとりするのを実感しました。いいものに出会えて感謝しております。（20代女性、飲用期間一ヶ月）



「バランスα」の開発・製造者 高橋剛物語その二

営業部長・目黒逸幸

高橋剛40歳の秋。

今日も嫌々農作業をしていると、男が近づいてきて「剛、なかなか良い米を作っているじゃないか。多収穫に出してみないか？」と言われる。本人は良い米を作るなどと言う気は全く無く、生活のためだけに仕方なく米作りをしているだけだから全く興味が無い。しかし、この農協職員の一と一言が、高橋の農業に取り組む姿勢をその後、大きく変えることになる。

発表当日、会場には1位をめざしてこの日を待っていた農家の先輩方が並ぶ。そんな中で一番後ろに座った高橋。ついに発表の時がきた。「今年の多収穫1位は高橋剛さん！」。そう会場に響いた途端、その場にいた全員から「なんであいつが？」という冷たい視線を浴びた。嫌な噂も広まった。「農協に圧力をかけたらしいぞ」、「金を使ったらしい」と。無名で実績もない百姓が1位を取ったからだ。身内である父親からも「お前どんな汚い手を使った？」と疑われる始末。だが、その周囲の冷たさが高橋の負けず嫌いに火を着けた。「身内からも信用されないなら、来年も絶対多収穫1位を取って見返してやる！」。やると決めたなら一直線の男。それからというもの連日、図書館へ通い詰めて農業に関するあらゆる書物を江戸時代まで遡って読み漁ることになる。

こうして米作りの勉強はしたがこれまでと同じことをやっても単なるコピーにすぎない。これ以上はないといわれる米を作りたい。そう考えた末、高橋の脳裏にあることがひらめいた。

「稲を鍛えよう！人間と同じように、稲も温室育ちだと弱くなってしまふ」米の栽培では通常、「芽出し」といって、ぬるま湯に種子を入れ、少し発芽させた状態で種子を蒔く。が、この時、彼がやったのは水を入れた桶の中に雪を割り入れ、種子に厳しい条件を与えたのだ。驚くことに、その条件下でも種子は芽を膨らませた。それは真に種子の持つ無限の生命力を痛感させられる出来事だった。

種子同様、苗も傍らに雪が残る苗代で自然のままに育てた。その苗は見るからに活力があり、病気など寄せ付けそうにない。収穫期たわわに実った稲穂が、種

苗期に培われた生命力を物語っていた。

昨年まぐれで取った1位。その翌年、高橋は断トツの収穫量で1位を獲得。自ら誓った2連覇を達成し、もはや嫌味を言う者もいなかった。そして、今まで嫌々ながらやっていた農業が楽しくてたまらなくなってきた。

高橋はいまでも私達にこう言います。「仕事は楽しくやれ、楽しくやったらいい仕事ができる」と。調子づいたら止まらないのがこの男。その翌年も1位を獲得し、見事に3連覇。普通なら有頂天になり、「もうこれでいいや」と思いそうだが、高橋は自らをさらに進化させる重大なことに気づきはじめていた。高橋剛43歳。



高橋剛／昭和21年、真室川町生まれ。昭和60年から3年連続して山形県良質米多収穫共励会で最優秀賞を受賞。昭和63年には、化学肥料や農薬を用いた農業と決別し、徹底した有機栽培に転じる。以降、一貫して自然農法による米作りを実践。技術指導は国内に止まらず、ロシア、オーストラリア、中国、フィリピンに及ぶ。

その3 代表取締役・平城匡史

「元妻からの電話、そして・・・」

元妻から携帯に連絡が入った。息子がまた怪我したか、娘がまた学校から呼び出されたか？ 恐る恐る電話に出た。「どうしよう！ 新聞ににげに投稿したら、掲載されることになっちゃった！ 断ろうとしたら、もう無理だつて！」

僕は思わず携帯を落としてしまった。あんなねえ、自分から投稿したんでしょ？ 『だってまさか本当に掲載されると思わなかったんだもの！ ねえ、新聞に掲載する前に原稿を読んで感想を聞かせてくれない？』

あまりに切羽詰った声だったので面倒くさかったが、帰りしなに元妻宅へ寄った。問題の投稿文はこうだ。『「ねえ、ママ」と懐かしい響き。「ママ、ねえママ」。腰のあたりで可愛い3歳くらいの男の子の声。お母さんと私を間違えたらしい。振り返ると30歳前後の若いお母さんが気がつき、互いに顔を見合わせて大笑いだった。なんてなつかしく可愛らしい声だろう。我が家の息子は高3で自動車教習所に通い、今ごろは路上練習中。中3の娘は受験生の自覚はどこまであるのか友達と渋谷へ買い物に。私は先月43歳になり、どっぷり40代だと少し落ち込んでいた。ケーキとマニキュアのプレゼントで子供たちが祝ってくれた誕生日。でも、それがうれしくない自分の年齢にちよつとため息。更年期という言葉がチラチラ頭をよぎる。そんなときに、3歳の子の可愛らしい「ママ」の声で何だか気分が明るくなった。どんな甘いさやきよりも魅力的に思えた。ささやいてくれる人はいないが、疲れた顔をしていたので近所のスーパーなのに珍しくお化粧してきていた。指に食い込んで重い買い物袋を両手に提げて、こんなときは誰かが一緒ならなどと都合のいいことを考えながら家路についた。』(©平城千恵子)

人生の峠を過ぎた、という実感が心に忍び寄る季節、幼子の声が一瞬のフラッシュバックを体験させてくれた……。その一瞬に彼女の長い長い時間が凝縮されている。その時間の中で浮んでは消える様々な物語は、誰と共有することもできず、褒めてくれる人もいない。でも、いいじゃないか、自分で自分を褒めてあげよう。そうすればその一瞬の体験は、明日からも生きていく力になる……。一見、他愛のないことも、同じような季節に生きている人には伝わる応援歌になっているよ。

僕はそんな感想を述べた。元妻はほつとした様子で、それでも「だけどちよつと物欲しそうに見えるじゃない？」と聞いてきた。「そんなことないよ。女ハードボイルドで、かっこいいよ」と、それだけ言って元妻宅を出た。いいじゃないか、どんな風に見えるかって。一人で手のかかる悪がきを二人もかかえ、フルタイムで遅くまで働き、それでもかっこよく、なんて頑張りすぎだよ。家に帰り、泡盛を飲みながら、彼女とは共有できなかった僕の10年を辿りはじめたら、いつの間にか、よだれをたらして、眠りこけていた。